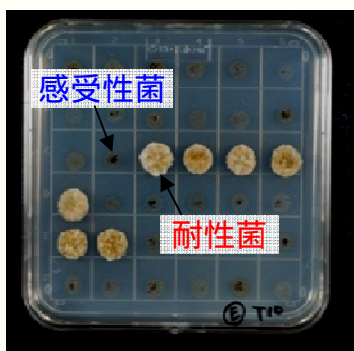
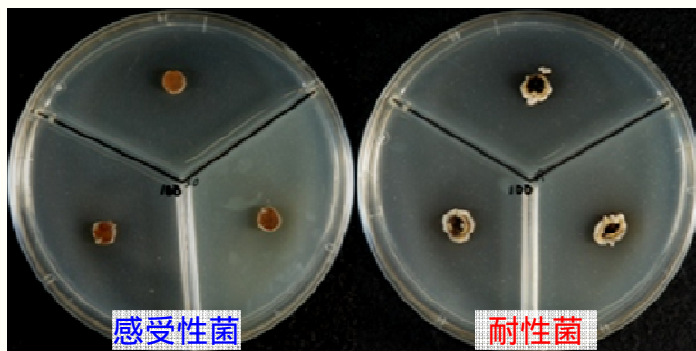


トマト葉かび病の3種殺菌剤に対する耐性菌 検定法と耐性菌の発生実態

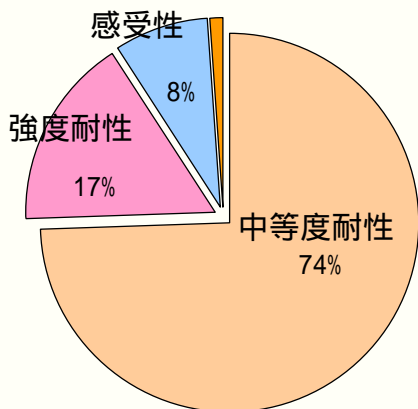
近年、岐阜県内のトマト産地では、葉かび病の防除に苦慮しており、この要因として殺菌剤耐性菌の発生が大きく関与していることが分かってきました。これまでに、アゾキシストロビン剤の耐性菌検定法を確立し、現地対応してきましたが、ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤、トリフルミゾール水和剤でも効果低下が懸念されています。そこで、これらの薬剤に対する耐性菌検定法を確立し、県内の耐性菌発生状況について明らかにしました。



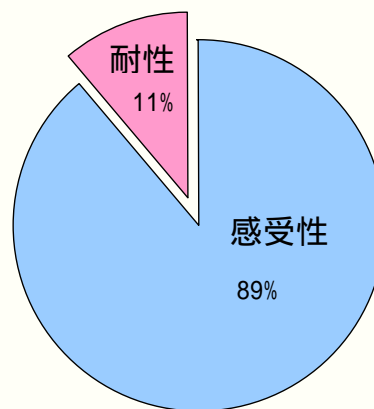
ジエトフェンカルブおよびチオファネートメチル耐性菌検定



トリフルミゾール耐性菌検定



ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル剤



トリフルミゾール剤

県内産地における耐性菌の発生状況(H23)

(研究成果)

- ・葉かび病菌のジエトフェンカルブ、チオファネートメチルおよびトリフルミゾール耐性菌の室内検定法を開発しました。
- ・ジエトフェンカルブおよびチオファネートメチルは薬剤添加培地に菌糸磨砕液を置床して菌糸生育の有無により、トリフルミゾールは、薬剤添加培地に菌叢ディスクを置床して菌糸生育抑制率により耐性菌を判別することが可能です。
- ・岐阜県内のトマト産地では、ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル剤の耐性菌が広く発生していること、トリフルミゾール剤の耐性菌が1割程度存在していることが分かりました。

(岐阜県農業技術センター 環境部)